

し、油断すれば替る物也。

〔童蒙酒造記〕酒言葉之事

- 一室の床食颯亂離と成を、擇食つばさといふ、
- 一蓋に盛て三ヶ一葩煎はせるを、足といふ、
- 一蒙もやしとは、麴の花の事也、
- 一本元とは六斗、半元とは三斗也、
- 一元味付とは、旨出うまさ来る事也、
- 一蔭むるとは、半切の壺臺に移す事、
- 一温ぬめめとは、懷湯たぎゆ入る事、
- 一ほうろく泡とは、鏡の見ゆる大き成泡の事、
- 一鬼灯泡ぼうつきとは、鬼灯程にて鏡見ゆる泡の事、
- 一蟹泡とは、右左々々と細か成泡の事、
- 一雪泡とは、雪の降積りたるごとく高泡の事、
- 一泡掛とは、温め引て後泡の様にて掛る事、
- 一下り掛け、同泡の下りを見て掛る也、
- 一半枯しとは、同泡上りて後日數四日めに掛る事、
- 一枯しとは、同泡上りて後日數七日に掛る事、
- 一大枯しとは、同泡上りて後日數七日以上、或は十日十五日、自然は二十日二十四日三十日までもにて掛るを云也、
- 一元起おこしとは、添掛る事、